



ネイチャーなら

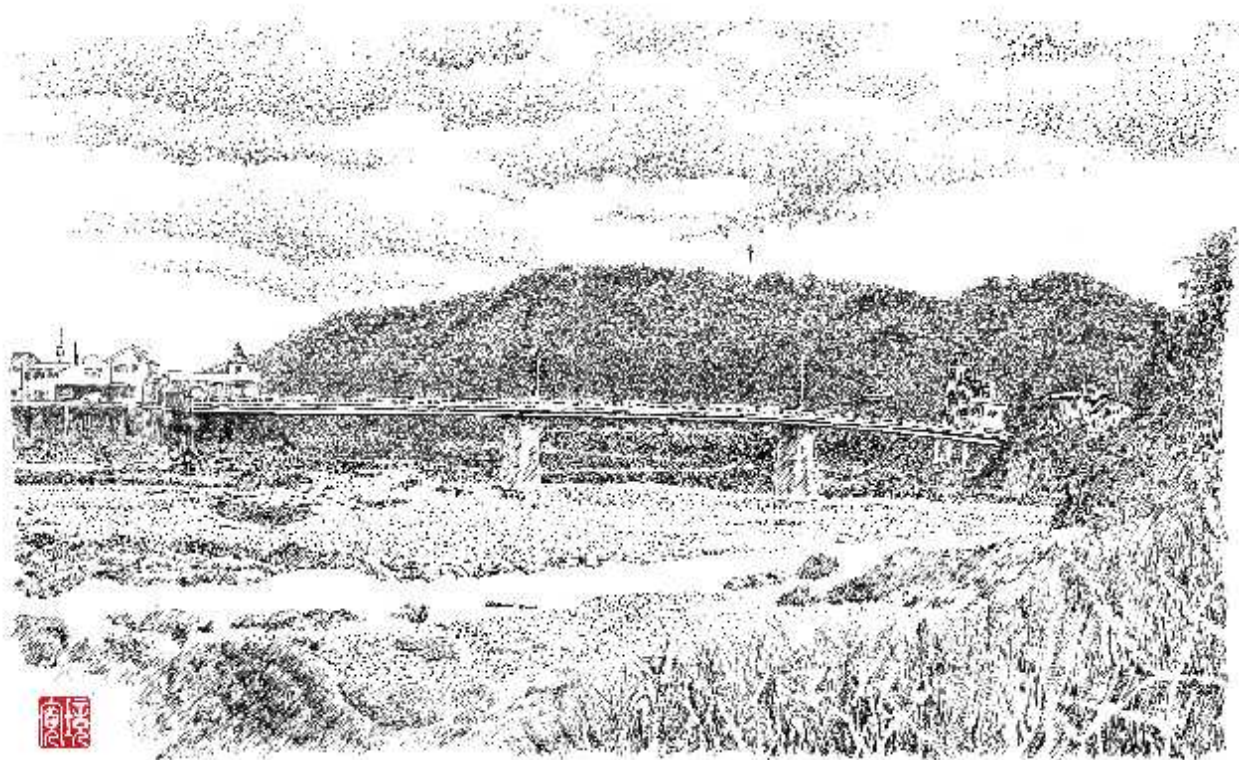
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2012年12月1日

12月号・第131号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



ナラ枯れ・現実の問題に !!!

(P. 9, 21)

「ならやま」で カシノナガキクイムシ(カシナガ)が見つかる!

\$\$\$ \$

Contents

\$\$\$ \$

突撃インタビュー.....	①	鳥シリーズ & 地域情報.....	⑫
古都連絡協議会 & 景観サポーター.....	②	美味旬感・奈良学クイズ.....	⑬
リレー随筆・お元気ですか!.....	③	Galleryならやま.....	⑭
イベントレポ1.....	④	自然俳句.....	⑮
イベントレポ2.....	⑤	癒しの散歩道 & ならやま茶論.....	⑯
イベントレポ3.....	⑥	青垣春秋.....	⑰
イベントレポ4.....	⑦	ならやま景観整備 & 情報BOX.....	⑱
Monthly Repo.ならやま.....	⑧	行事案内part①.....	⑲
里山の今・自然観察レポ.....	⑨⑩	行事案内part②.....	⑳
やさしい昆虫講座②⑥.....	⑪	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記.....	㉑

突撃インタビュー この8ヶ月を振り返って

11月15日(木)快晴

久しぶりの爽やかな朝を迎え、恒例の朝礼時、ラジオ体操前に鈴木編集長より藤田会長、木村副会長に対し「この8ヶ月を振り返って」と題する突撃インタビューが行われました。

以下にインタビュー内容を紹介致します。

◆鈴木:

「ならやまの未来像、将来のビジョンをお聞かせください。」

◇藤田会長:

現在会員は約130名。毎年4月時点では新会員含め140数名となりますが、最終的には130名前後で落ち着きます。その陣容で今やならやま景観整備事業は20haにも及んでおります。

私のモットーは、参加者の皆様に1日もしくは半日の活動をゆっくり、のんびりと楽しんで頂ければ、それが一番と言う事にあります。

ナラ枯れの問題や第5地区の整備開始と今後の課題も出て来ておりますが、規模拡大よりも参加者全員の喜び、楽しさを重視し今後の運営に当たりたいと思っております。

また、ならやま景観整備事業だけでなく、外部に対するイベント、催しの開催も積極的に取り入れて参りたいと思っております。

実際、ならやま景観整備事業とは別に、例会、歴史文化クラブ、自然教室等、他にも沢山の方々に参加頂いております。これらも含め、皆様方全員の力で更に広げ、楽しんで頂きたいと思っております。

その為には会報誌の役割、重要性は更に大きなものとなっています。それ故、会報誌を更に活用すべしと切に考える次第です。会員相互の情報を今後更に広げて行きたいと思っております。

◆鈴木:

有難う御座いました。それでは木村副会長にお伺いします。

「これまでの8ヶ月間を振り返って一言」お聞かせ下さい。

◇木村副会長:

5月より着任致しました。なかなか慣れない大役ながら、皆さんの御協力を得て頑張らせて頂いております。

私のモットーも、みんなが楽しく、無理のない様、汗を流して行ければと言う事にあります。これまでの活動に付いての(まとまった)記録が意外に乏しい様に思われます。今後そうした記録をまとめ残して行ければと考える次第です。

*****インタビュー後のまとめ*****

◆鈴木:

会報誌発行を担当しておりますが、決してならやま中心の会報を目指しているわけではございません。これまで他の活動に付いての寄稿、情報発信が少ないのが理由です。これを機会に是非、各チームよりの積極的な寄稿をお願いする次第です。

なお、併せて、アンケート回答まだの方もご回答頂きますよう宜しくお願い致します。

(記録:辻本信一)



トピックス

古都連協のならやま景観整備事業視察

11月2日(金)、奈良市で開催された古都保存連絡協議会主管課長会議に参加の9名の皆さんが、奈良県担当の案内で当会のならやま景観整備事業地を視察された。視察の皆さんは若草山への途中で、ナラ枯れ対策地を見て、山頂より歴史的風土特別保存区域平城宮跡地区の全容を見られ、当会の第5地区に来られた。



森副会長の案内で同地区を南側から歩いて、開発中止で荒廃した宅地跡地の景観整備中の状況を視察された。

ならやまのベースキャンプで、阿部顧問が「奈良・人と自然の会」の景観整備活動について余す所無く話をされた。当会の冊子に加え、ならやまの四季、会報誌11月号も手に取って見て頂きました。



質疑応答の後、ならやま里山林、田畑、ビオトープ、第2次皆伐地区、ならやま自然の森等を見て回られた。

参加の皆さんは良い印象をもってお帰りになられたようです。

因みに参加の9名の方は国2名、神奈川県、鎌倉市、奈良市、明日香村各1名、奈良県3名でした。有難うございました。

* 今回の訪問を受けて、古都保存法による歴史的風土特別保存区域としての、当地区景観整備の在り方を更に学ばねばと感じさせられた。

県景観サポーターの活動体験の受け入れ

11月8日(木)「奈良県景観サポーター」による景観づくり活動の体験希望者8名と県のスタッフ5名の計13人の方をならやまベースキャンプに受け入れた。

「景観サポーター」は、奈良県が本年度より地域の“景観づくり推進員”となることを目指す制度で、第一期生は22名だそうです。

午前中、「山作業と安全」の話の後、第2次皆伐地区で、会員と一緒に皆伐作業に従事した。会員のチェンソーを使ったコナラの伐採作業に興味深く見入り、その解体に積極的に取り組んでくれた。



昼食時には、ならやま名物の味噌汁がふるまわれた。



午後は、藤田会長が「奈良・人と自然の会」について説明され、参加者の質疑に応じ、川井、阿部、古川先達の設立、運営の苦労話、秘話で盛り上がった。

貴重な意見交換会後、ならやま里山林内を見て回った。

* 「なぜ木曜日が活動日なのですか」の質問には思わずいろいろ考えさせられた。この会は退職者中心だけの会で良いのか。土、日に活動して新しい人達が関わってくれる方向にするのか。もう一度考えてみよう。

【2、8日の機会は、当会の活動を高く評価して頂いている奈良県くらし創造部景観・環境局風致景観課(古都管理係、景観保全審査係)から依頼されたものです。】 (文責：塩本)

リレー随筆



お元気
ですか！



年の瀬を迎えると
思い出すこんな話

辻本信一

もう10年以上も昔の話だが、師走のこの時期に成ると思い出す話がある。私達夫婦はドイツのデュッセルドルフと言う街に住んでいた。あと数時間で新年を迎えようとする大みそかの夜、テレビを見て居ると、突然チャップリン時代の無声映画を彷彿とさせる白黒の番組が始まった。年老いた男女の俳優が、同じセリフを繰り返しながら話は進んで行く。内容は分からない。最後は老執事と思しき男性が、女主人らしき女性を介抱し別室に引き上げ、幕と成る。

後に同僚のドイツ人に聞いたところ、これこそが、日本の「忠臣蔵」に匹敵する大みそか恒例のテレビ番組「ディナー・フォー・ワン」だった。ドイツでは1963年以来、毎年大みそかには再放送される定番の長寿番組だ。御参考までに現地の日本人向け情報誌「ドイツニュースダイジェスト」に当時掲載された記事を以下に引用する。

『舞台は英国の上流階級とおぼしきとある家のダイニングルーム。当家の老嬢ソフィーの90歳の誕生パーティーに男性4人がゲストとして招かれた、はずなのだが、席にはだれの姿もない。もうこの世にいない友人たちなのだ。ゲスト4人と給仕1人の5役を務めるのは老執事のジェームズ。ソフィーがグラスを重ねるたびにジェームズがゲスト4人分の乾杯の挨拶をし、グラスを干してはテーブルを何周も周り、へべれけに成って行く。メニューを確認する度にソフィーが繰り返すセリフが、「The same procedure as every year (今年もまた、いつもと同じように)」そしてクライマックスはディナーを終えて退場するソフィーがジェームズの腕につかまってこのセリフを繰り返すところ。……』



かつての敵国英国の番組がどうしてこれほどまでにドイツ人に愛されるのかは分からない。しかし、巷ではドイツ人の英国へのあこがれと喜劇の底に漂う悲哀と孤独への共感からとの見方が強い様である。

それでは皆様「今年もまたいつもと同じように」

畑との出会い

萱野 勉

今から約30年前の話ですが、知人から「奈良市六条西町の土地を開拓して畑をやってみないか？」とお話がありました。その土地は、約120坪もある土地でした。1人では無理だと思い、友達2人を誘い3人で始めました。会社勤めのかたわら、約半年かかって、やっと畑らしくなりました。土すらいじった事のない私でしたが、友達と協力し合い畑が出来たときには胸が一杯で、感動し嬉しかったです。

ここからが私の野菜作りの始まりです。「さて、まずは何から作ろうかな？」と思いながら、野菜の種、肥料のやり方など色々な人から教わりながら、自分なりに本などを見て勉強してきました。今では、色々な野菜を作れる様になりました。今では、小梅、梅、みかん、キュウイなどにも挑戦しています。毎年すいか作りに挑戦していましたが、年々不作になり、野菜の方も今以上に上手く作れるようになりたいと思っている時に、中学校の同窓会で鈴木末一さんと出会い、野菜の話から無農薬・有機栽培の話聞き、興味関心を持ち入会させて頂く事になりました。

それから3年半がたちました。無農薬・有機栽培の事を色々と知り、これからも目標に向けて身体に気を付けながら、頑張っていきたいです。





丸山千枚田探訪 & 熊野三山参詣

11月12日(月)～13日(火)の2日間、31名のご参加により、熊野市紀和町の丸山千枚田探訪と熊野三山参詣の研修旅行を実施した。

熊野市地域振興課・森岡さんと紀和町ふるさと公社・長野さんの出迎えを受け、全体を見渡せる場所で概要の説明をしてもらった。その後、1,340枚の棚田の中で最も小さな3株だけという田を見学、傍らの畦に一輪のリンドウの花を見つけカメラに収め、探訪記念の写真撮影を済ませて滞流荘に戻る。

長野さんから、丸山地区の概要(歴史など)、千枚田の推移(復元に向けた取り組み)特に「丸山千枚田保存会」発足に至る経緯、現在の組織、「丸山千枚田条例」の制定、「オーナー制度」の制定と関連するイベントやボランティア活動、等々の説明をしていただく。

千枚田は、耕地の大部分が山腹の急峻な斜面に幾重にも描かれた棚田であり、棚田百選にも選ばれている。慶長6年(1601)には7ha、2,240枚という記録がある。明治時代には開墾で11haまで拡大し、昭和30年代までは維持されてきた。しかし、40年代に入り、高度経済成長の流れの中で若年層の都市部への流出、後継者不足や減反政策、過疎化や高齢化に伴い、作業効率の悪い棚田は、徐々に耕作放棄地となり荒廃の一途を辿る。平成の初期には、530枚、約4.6haまで減少した。



危機的状況が続く中、地元の住民たちは、「自分たちの代で、この貴重な文化遺産をなくすわけにはいかない。素晴らしい景観と農耕文化を後世に残し伝えなければならない。」と立ち上がり、平成5年8月に地区住民全員による「丸山地区千枚田保存会」を結成し、千枚田の復元と保全活動が始まった。会結成後1年間で、810枚の復元に成功し、1,340枚という日本でも最大規模の枚数を誇る棚田となった。1枚当たり約10坪、ほとんどが手作業で守り続けられている。

平成5年4月、熊野市が100%出資を行い、「財団法人 紀和町ふるさと公社」を設立、平成6年に全国初の千枚田条例を制定、市・保存会・公社の3者による千枚田復元へ向けての連携体制が整えられてきた。7.2haのうち、3.4haは地域住民による個人管理、3.8haは公社が管理し、その中の1.54haがオーナー田となっている。

現地研修を通して、先人たちの智慧と汗の結晶とも言える「歴史地理的文化遺産」は、単にその地域に依存するだけではなく、全国的な広がりの中で国民的文化遺産としての認識の下に、保全を進めていくことが求められているとも思う。

翌日は、熊野三山を参拝した。原生林の中の巨木、巨岩、滝など、人知を越えた自然の造形に、古代の人々が畏怖の念を抱き、自然を崇拜したことを多少なりとも感じる事ができた。

終わりにになりましたが、速玉大社では、上野宮司の奥様にお出迎えいただき、正式参拝の後、宮司様からお話しを拝聴、寿酒や牛玉符・長寿箸を賜りました。厚くお礼を申し上げます。

(文責：鈴木)

私の一旬(車中)

野菊晴にふるさと匂ふ千枚田
災害の傷痕癒す紅葉かな
もみじ消え十津川河原痛ましき
熊野路やパッチワークにもみずりて
熊野路のトロッコで行く秘湯かな
山削り岩を流して台風禍
熊野路の谷間に映える紅葉かな
大滝の幣をくぐりて落ちにけり
朝霧に浮かぶ熊野の神の国
秋色の山の吊橋脚ふるえ
夕日さす風屋のダムに鴨一羽
こもりくの大権現や落葉踏む

弓場 京子
守口 京子
和田 啓志
鈴木 末一
寺田 孝
木村 宥子
藤田 秀憲
木村 優
川口 達夫
池田 信明
弓場 厚次
青木 幸子

もみじ狩酔へば酔ふほど色変る
トロッコの終着駅や谷紅葉
大崩壊怒れる山の紅葉かな
山霧や平氏ゆかりの熊野みち
ゆさゆさと谷瀬の橋で紅葉狩り
秋風のさやさやさと千枚田
紀の国に紅葉ひとひら舞扇
秋の風熊野の山に吹き渡る
秋深き熊野詣の古代神
峡谷に紅葉黄葉の流れゆく
ナギ大樹秋天にありバスの旅
もみずるや宴の後の湯のけむり

塩本美都子
松本 武彦
古川 祐司
平 常男
阿部 和生
豊島すみ子
谷川 雅邦
奥野美佐子
村上 雄之
羽尻 嵩
辻本 信一
川井 秀夫

イベントレポート② ～佐保台ファームの取り組み～

総合学習としての 水稲栽培体験



ならやまの里山に水田を復元して早、丸4年目になった。佐保台小学校5年1組の児童たちが取り組む体験学習も、同じく4年目を迎え、総合学習に定着させていただけるようになってきた。今年は、会員の皆様方からのご要望もあり、約2倍の面積にまで整備拡大させた。南側半分は佐保台ファームとして活用し、北側の半分は会員用とすることにした。

5月下旬、5年生13人が、初めての田植えにチャレンジ、3本の苗を目印に合わせて3株ずつ植え付けていく。足の運び方がぎこちなく、思わずのけずりそうになりながらも、次第に手つきも良くなり、自分の持ち場を完成させていく。名札を立てて作業を終了となる。

そのような体験から、7月・9月の生育観察などを経て、10月下旬に稲刈りに取り組んだ。鋸鎌の使い方や稲株の持ち方等の諸注意を聞き刈り進む。やはり、田植え等と同様に手際の善し悪しが目立つが、次第に慣れてきて予定の時間には全部の稲株を刈り終えると同時に、稲掛け作業も完了させてくれた。そして、11月上旬には、足踏み脱穀機とコンバインによる脱穀を体験した。

約半年近くの期間、初めての水稲栽培・実体験学習を経験してきた。この間、子どもた



ちの表情の中で、印象深い数コマを紹介すると、

- ① 事前学習で米生産量のグラフを見て、極端な変化の部分を目ざとく見つけた時
- ② 田植えの時、素足の裏で感じた泥の感触への反応
- ③ 田植えから約1か月後、10倍近くに増えた稲株の成長ぶりを確かめている眼差し
- ④ 台風などの強風にも倒伏することなく、たわわに稔った稲穂を見つめる目
- ⑤ 約70年前の足踏み式脱穀機に稲束を入れると籾が割合簡単に落ちた時
- ⑥ コンバインで、稲束を入れてから籾となって出てくるまでのスピード

これらの節目に見せた色々な表情は、単に「感嘆」や「驚き」の表れとしてだけではなく、純真な心の動きとして、感じたことを率直に表現してくれているように思われる。

子どもたちにとって一連の水稲栽培学習は、まさしく「百見は一体験に如かず」であったに違いない。

総合学習に関わる支援活動を行ってきたが、

- ① 安全でおいしいお米を育てるには
- ② 身近な食べ物から世界の食べ物へ
- ③ 食を通した健康や生命について

等の自主研究課題を見つけて、それらについて学習を深めてくれればと大いに期待している。また、楽しく意欲的に学ぼうとする姿を見ると、

「自ら課題を見つける。」

「自分の力で課題解決に取り組む。」

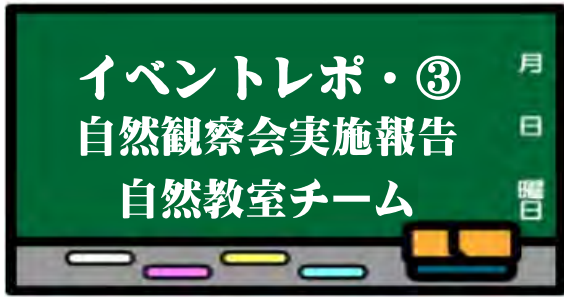
「心豊かに表現する。」

「学んだことから自分の食生活などを考える。」

といった、私なりの期待する児童像に、全員が一步一步近づいていってくれるものと信じている。

さて、今年の5年生は、佐保台フェスティバルで、どのような発表を展開してくれるだろうか、楽しみにしている。

(文責：鈴木)



11月20日(火)大和郡山市少年自然の家前に、自然教室チームのメンバーと一般参加の方合わせて18名が集まりました。

観察会の講師は「大和郡山の子どもと自然を愛する会の野遊びサポーター」でいらっしゃる御宮地伸彦さんです。

山の木々が色付き始め、秋の深まりを感じる矢田丘陵の里山に向けて出発しました。

まもなく田んぼの中に黄色い可愛い花を見つけました。見たところジシバリに似ていますがどうも違うようです。まずジシバリは春の花のはず、葉を見ると細くて長く真っ直ぐに立っています。これはスイランと教えていただきました。秋に咲く花でタンポポと違って茎が枝分かれをして、2、3個の蕾をつけます。湿地が好きなようです。

次に観察したのは、フジバカマによく似たサワヒヨドリです。湿地に咲く花でフジバカマやヒヨドリバナに比べると葉っぱが細いようです。ヒヨドリバナの名はヒヨドリが里に降りてきて鳴く頃に花が咲くことから名付けられたことや、フジバカマの名は小さい花弁を逆さにすると袴に見える事からだとか。名前をつけた人は、よく観察され



た方だと感心するばかりです。

オグルマはキク科の花です。春に咲くキク科の黄色い花はたくさんあり

ますが、秋に咲く花はそう多くはありません。同じキク科のスイランより、一回り大きい花で、華やかに見えます。

野菊の花が咲いていました。頭状花に舌状花と筒状花があることの説明を聞きました。

このあたりでは、ヨメナとノコンギクが咲いていますが、花の下部に毛があるのがノコンギク、毛がないのがヨメナであることを教えていただき、ループで確認しました。

このようにたくさんの花を観察しながら進みましたが、この時期、少ないと思っていた草花が意外に多くあることに気づかされました。

アメリカミズキンバイ(別名ヒレタゴボウ)タツ



ナミソウ、アキノキリンソウ、リンドウ、ツルニンジン、センブリ、アキノタムラソウ、サクラタデなどが心を癒してくれました。

フユハナワラビ

フユハナワラビの珍しい姿も見ることができました。

午後は東明寺の美しく色づいたオオモミジとイロハカエデの違いを観察したり、つる植物を観察しながら元の場所に戻りました。

最後はドングリの笛づくりに挑戦です。笛が作れないと居残りさせられると思ってか、皆夢中になって作っていました。出来上がって綺麗な音が出ると「鳴った!鳴った!」と大興奮する人もいて楽しい観察会の締めくくりとなりました。



参加した方からは、

「ゆっくりと、わかりやすく丁寧に教えていただけて大変良かった。」

「季節を変えて、またして欲しい。」

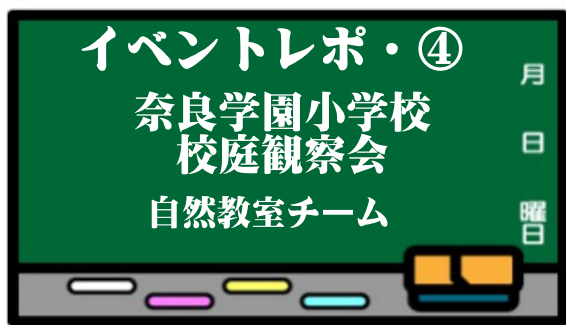
「里山の風景がとてもよく、楽しめた。」

「紅葉も見られ季節が良かった。」

「ドングリ笛作りが楽しかった。」

「知らない草の名がどんどん出てきて驚いた。」

等々の感想が聞かれました。(平岡久美 記)



校庭観察会の実施で一番の心配は天候です。

11月21日(水)は秋晴れの良いお天気で、絶好の観察日和となりました。



1年生79名が私達11名のスタッフを笑顔で迎えてくれました。

観察ポイントは、植物が7、ネイチャーゲームを2としました。与えられた時間は挨拶やまとめを入れて90分。

こんなにたくさんのポイントをこなすのは初めてのことでした。



スタッフはいろいろなドングリやカエデのプロペラ、カタバミ、オオバコなどを、自宅の近所や出先で集めて準備を整えました。

ドングリのポイントでは、

- ① ドングリはどのくらい種類があるのだろう。
- ② 根と芽はどこから出るのだろう。
- ③ 食べられるドングリはどれかな？

のクイズを中心に話をしたあと、実際のドングリを見てもらいました。

子ども達はドングリが大好きです。目を輝かせて自分の経験をたくさん語ってくれました。ドングリゴマやドングリ笛などの紹介もしました

カエデのプロペラがクルクル舞って飛ぶ様子に歓声を上げたり、イチョウの葉っぱを紙に写したり、カタバミで10円玉をピカピカに磨いたり、オオバコの花柄で草相撲を楽しんだり、オナモミダーツしたりと遊びながら植物の不思議や知恵をたくさん体験してもらいました。

隠された人工の物を探す体験をし、自然に同化した物を見つけにくいことから、虫たちの生きる知恵に気づいてもらうゲームを体験してもらいました。鏡を使った不思議体験は新鮮な驚きのようなでした。



終わった時には子ども達はカエデのプロペラ、葉っぱの形写し、ミラーウォークが楽しかったと笑顔で話してくれました。

後日送られてくる感想にどんなことが書かれているか楽しみにしています。

スタッフからは、

- ① 子ども達に喜んでもらえた。
- ② 混み合う時のための手立てが必要である。
- ③ ポイントの数が多かった。

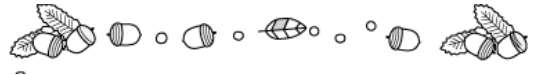
などの感想や反省がありました。

今後の観察会に生かしたいと思います。

(平岡久美 記)



Monthly Repo. ならやま



◆10月20日(土) 晴れ 27名+70名

佐保台小学校児童と会員家族対象の「芋掘りと自然工作」のイベント。蔓の長さ、芋の重量比べなども実施し、昼はさつま汁を賞味し、午後には竹ぼっくり作り、焼き芋などの賞味など盛り沢山な内容で、賑やかで楽しい一日となった。

◆10月25日(木) 晴れ 56名+17名

作業開始前にベースキャンプ周辺地区の一斉清掃。1時間弱の作業であったが、20袋余りの不法投棄ゴミが集まった。

午前中稲刈りを行ったが、田の一部が水吐けが悪く、足をとられ、泥だらけとなった。午後、佐保台小学校5年生の稲刈り。あっという間に終え、稲掛けまで終えた。



里山・景観グループは第5地区の整備に奮闘した。

◆11月1日(木) 曇り一時晴れ 49名+4名

新たに設定した皆伐林区において、低木からの伐採を開始した。

農園では、来年に向けてエンドウなどの豆類の播種を行った。

花関係では、先週からコスモスの整理、キンセンカ、ムラサキハナナの畑の準備を実施。

先週収穫したソバの脱穀を行ったが、雨風による倒伏があったせいか、収量は昨年に比べ少なかった。

森林総合研究所からカシノナガキクイムシに詳しい専門家に来てもらい、被害発生確認をしてもらった結果、数本の樹がその被害であることが判明した。

◆11月2日(金) 曇り 8名+11名

古都連絡協議会主管課長会議のメンバーによる現地視察があり、第5地区、ベースキャンプをみてもらい、ならやまの開発当初から関わってきた阿部顧問が、開発整備経過についてパネルで説明を行った。

◆11月4日(日) 晴れ 11名

作業が遅れているため、急遽稲の脱穀作業を行った。関係者の皆様、ご苦労様でした。

◆11月8日(木) 晴れ 56名+29名

奈良県が実施している「景観サポーター」養成事業での実習を受け入れ、受講生8名、スタッフ6名が来られた。午前中は皆伐地区でのコナラなどの伐採整理作業の実習、午後はならやま景観整備事業の概要説明とならやまの見学を行った。

ならやま地域全体の安全性チェック、希少植物の保存、動植物の記録などを目的とするならやまパトロール隊が発足し、巡回コースの下見を行った。

◆11月15日(木) 曇り一時小雨 48名+3名

カシノナガキクイムシの被害樹、枯れたマツの伐採処理。コナラの被害樹を割ったところ、多数の坑道と幼虫が確認され、放置すれば次年度には大量の成虫の発生が予想された。

除草作業が一段落したので、懸案となっていた彩りの森斜面での竹の間伐を開始した。

(文責：木村 裕)



里山の今

part 1

ならやま花だより

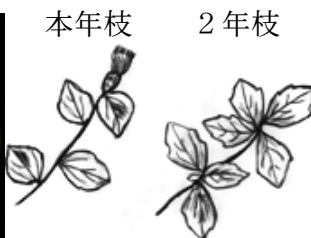
吉村さつき

◆11/15(木)

柿の紅葉や真っ赤になる前の赤・黄・緑の混ざった葉、コシアブラ、タカノツメの光を浴び透きとおった黄葉の美しさに見とれてしまいます。

でもどうしたのと問いかけたくなるサクラやモチツツジもちらほら花を咲かせています。高野山で茎を束ねて箒の材料に使われたコウヤボウキ(キク科)が可愛い白から淡紅色の花を咲かせています。

葉は本年枝と2年枝で形や付き方が異なります。本年枝の葉は卵形で互生本年枝にのみ先端に花を1つ付けます。2年枝は細長い葉が束生します。不思議ですね。



【草花】チヂミザサ、キツネノマゴ、ツリガネニンジン、カタバミ、オニノゲシ、ヒヨドリバナ、アキノタムラソウ、セイタカアワダチソウ、ヒメジョオン、ベニバナボロギク、イヌガラシ、アメリカイヌホオズキ(花と実)

【ビオトープ付近】イヌタデ、ボントクタデ、ヤノネグサ

【木の花】コウヤボウキ、サクラ、モチツツジ

【木の実】ムラサキシキブ、ノイバラ、ヒサカキ、マンリョウ、フユイチゴ、コシアブラ

【花壇】ヒメツルソバ、イトラッキョウ、コウテイダリア

ナラ枯れ発生

森 英雄

一昨年夏に春日山で『ナラ枯れ』が発生して以来、我がならやま里山林でも『ナラ枯れ対策』に取り組んでいます。

昨年6月から、伝染媒体である『カシノナガキクイムシ』の飛来をチェックするために、粘着力のある紙を30本のコナラに貼りつけて観察する調査などを行っています。

幸にも、昨年・今夏共にターゲットの『カシナガ』は見つからず、胸をホッとなでおろしていました。



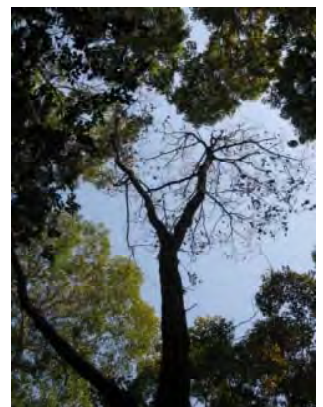
ところが、9月に入って周縁部4本のコナラにフラス(木屑)が見つかり、うち1本のコナラの葉が一部萎れているのが見つかりました。

そこでご指導いただいている森林総合研究所に相談し、11月1日、黒田教授(神戸大学大学院)、衣浦・大住博士(森林総合研究所)に御来所・観察して頂きました。

その結果、うち3本はカシナガが入った痕跡が見られました(葉が枯れたのはカシナガが直接の原因ではない)ので、このうちの2本は今冬に切り倒すことにしました。

更にこの時の里山林の観察などで、明らかに『ナラ枯れ』に罹ったコナラが1本、侵入の痕跡のあるコナラ2本が見つかりました。これらはすぐに伐採して薪にしました。

既にならやまにも、カシナガが飛来している事がわかりましたので、今後は初期対処により被害拡大を防ぐ事を目指して、より慎重な調査と対策法の検討を進めていきます。



11月号9ページ、「里山の今」右欄下の写真は、西谷さんがウマノスズクサの傍に立ててくださったユーモア看板です。

里山の今

part 2

カヤネズミ 菊川年明

今年10月号にならやまで見かけた哺乳類動物の記事(ならやまの獣)を書いたが、また新しい動物の痕跡が見つかった。それはカヤネズミというわが国で一番小さいネズミである。名前についた「カヤ」は茅又は萱、すなわちススキなどのことである。

カヤネズミは河川敷や背の高い草原などに住んでいる。頭胴長5~8センチ、尾長5~9センチ、体重7~14グラム、色彩は赤灰色で、たいへん可愛いネズミである。

ススキの葉の間などにイネ科植物の葉でソフトボールくらいの球形の巣を作る。最近は棲息数が少なくなっていて、地域によっては絶滅危惧種になっているという。

10月11日の活動日は佐保自然の森の除草作業に従事していたが、近くで作業をしていらっしゃった山本妙子さんが不思議なものを見付けたと言って見せてくださった物を拝見するとカヤネズミの巣(用済みのもの)であった。こんなところにカヤネズミがいるとは思わなかったが、久しく草茫々の場所になっていたからであろう。

私たちの里山整備は彼等にとってはたいへんご迷惑であろう。

▼(写真はそのときのカヤネズミの巣)



ジャコウアゲハ 短信 菊川年明

9月に孵化したジャコウアゲハの幼虫は、10月初旬に蛹になったが、このまま冬を越し、来春4月に成虫のチョウになるようである。

ならやまパトロール隊 11月報告

新たにできた「ならやまパトロール隊」は11月から活動を開始しました。守口さんを中心に総勢15名で今まで守口さんが一人でやってこられたならやまのパトロールとその記録を拡大してもっと頻繁に多人数でやろうということです。

主な目的は観察路の季節の移り変わりの紹介や観察路の整備状況のチェックと報告、希少生物の保護です。まず手始めに、守口さんが作ったコース図に従って全員で歩いてみることにしました。全コースを4つに分け活動日ごとに一コースずつ周り、道を覚えます。

1回目は彩の森の少し東から入って自然の森から第五地区に出て佐保の森を通り竹の子平を抜ける第一コースです。自然の森は手入れを最小限度にとどめてあるだけに道は細く、下草や倒木もありましたが足元ではツルアリドオシ(一両)が小さな赤い実をつけ始めていました。もうお正月が近いのですね。



冬に入りかけた森は大変静かで気持ち良く、見上げると冬色のコシアブラの葉が日の光を通し輝いて見えました。

遊びの森付近には倒れかかっている木があり、山の担当に伝えることになりました。道の整備個所の指摘とともにパトロール隊の初仕事です。

2回目の第2コースは自然の森からいったん自転車道に出て、またすぐに森に入り鳥観の丘めぐりました。ここは最近あまり入っていないので歩きにくく、それだけに他とは違った美しさのあるところでした。シロミノカラタチバナ(百両)が立派に実をつけていました。鳥観の丘からはクロモジやシイタケの床などを見つつ下って行きました。



シロミノカラタチバナ(百両)が立派に実をつけていました。鳥観の丘からはクロモジやシイタケの床などを見つつ下って行きました。

コクランも数年前より数は減っているようですが、場所によってはしっかり元気に育っています。

今後を“乞うご期待”(報告:木村宥子)

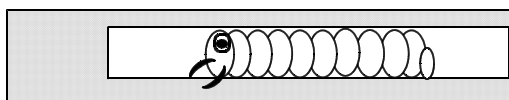
やさしい昆虫講座 ②6 木村 裕



何でも切り裂く牙の持ち主は？

カミキリムシをご存知ですか？長い触角をもった甲虫で、体長の倍以上の長さを持ったものもいます。行動するのに邪魔になるのではないかと思うのですが、本人にとっては自慢の種のように、「大きなお世話だ」と言われました。また口には頑丈で鋭い牙を持っており、硬い樹皮でもがりがり齧って穴をあけます。ビーバーといい勝負かもしれません。手の皮などはたやすく切られますので不用意につかむと痛いめにあわされます。

幼虫は「テッポウムシ」とも呼ばれ、樹の幹内に住んでいます。黄白色のウジ状の虫で、足は一本もありません。トンネル作りの名人で、硬い材の部分を食べ進んでゆき、内部を空洞にします。それゆえ、この虫を居候させている樹や枝は、風などでたやすく折れます。



安全な住居と豊富な食料の提供を受けた幼虫は1年後、ときには2年後に成虫となって、樹皮に丸い穴をあけて脱出しますが、この穴が鉄砲で穿たれた穴と似ていることから、テッポウムシと呼ばれるそうですが、真意のほどは知りません。この丸々と太った幼虫は、アジアやアフリカでは今日も食料として珍重されています。

皆様に最もなじみのあるのは、「ゴマダラカミキリ」でしょう。青黒色の地に白い小さな斑点を星の



ように散りばめています。カエデが大好きで、若い枝の表面を浅くがりがり齧りますので、枝の周りをぐると一周されるとその枝は枯れます。もちろん幼虫もこの樹が好物です。

コナラ、カシ、プラタナスなどの幹から木屑がこぼれ落ちているのは、「シロスジカミキリ」のお子様がトンネル作りをした成果？です。このカミキリムシは、大きさで日本で1、2番を争っています。

名前はよく聞くが姿を見せたことがない有名な虫は「マツノマダラカミキリ」でしょう。通称「マツクイムシ」と呼ばれるグループの大将で、マツ枯れを引き起こす犯人ともなっています。成虫が松の葉や枝を齧ったとき、体内に蓄えていたマツノザイセンチュウと言う糸状の虫が、カミキリムシからマツへと移動します。このセンチュウが松の樹脂道に住み着き、増えて、最終的に樹脂道を塞いでしまうと言われています。脳や心臓の血管が詰まって死亡するのと同じ現象です。それゆえ、葉が褐変し始めた樹では枝を折ってもヤニが出てきません。もちろん幼虫はこの樹で成長し、蛹から成虫になる段階でお友達のセンチュウを引き連れて飛び出します。

カミキリムシは日本には800種あまり記録されており、そのほとんどが樹の幹や枝内に寄生します。しかし、「キクスイカミキリ」のみは、キク科の草花の茎に寄生します。5～6月頃、キクの伸びだした先端部が萎れて垂れ下がっているのがよく見られますが、これはこのカミキリムシが茎を噛み切って卵を茎内に産んだためです。少し注意して付近の葉上を調べると長さ1cm前後、暗緑色で背中の一部が橙色の虫が見つかります。体は小さくても一人前で長いヒゲを持っています。



鳥シリーズ

小田久美子

ハヤブサの目

「鳥瞰図」はご存知のように、鳥が空から見て
いるような地図のことです。人類は大昔から鳥に
憧れ続け、今やグライダーや飛行機で空を飛んで
野山を見ることが出来、人工衛星のお蔭で鳥どこ
ろか神になったように地球を眺めることが可能に
なりました。衛星「ハヤブサ」の帰還では、「ハ
ヤブサ」のまさに命が消える瞬間に立会った日本
中の皆さんが涙無しでは見られなかった映像だっ
たと思います。その時「ハヤブサ」を擬人化して
感情移入したり、無くしつつあった日本人の誇り
を取り戻したからだったと思います。「ハヤブサ」
は宇宙で迷子になりながらも健気に、最後迄ピン
トを合わせてクリアな映像を地球に送り続け、私
たちをまさに鳥の目にしてくれました。一方名の
由来となった本家の鳥「ハヤブサ」はじめタカた
ちの目は、餌に向けて急降下する時に、その対象
にピントを合わせ続けながら飛びます。追われる
小鳥たちもぶつからず飛び続けます。どちらも同
じように動体視力がいいのに驚きます。仮に鳥の
ハヤブサと同じ速度で急降下出来たとして、私た
ちの目は何を識別出来るでしょうか。訓練された
軍人は別ですが、ジェットコースターからでも外
を正確に識別出来る人は多くないでしょう(勿論
恐怖も加わって)。最近、鳥の祖先は始祖鳥では
なく恐竜だという説が出たりしていますが、どち
らにしても1億何千万年程大先輩の鳥に憧れ続け
た後輩の人類は、6・700万年かけてやっと鳥に追
いつき、今や宇宙に飛び出し鳥を越えつつありま
す。



▲ ハヤブサ



地域情報 11月号

【斑鳩】10月22日、この日はピリッとした
寒い朝でした。ジョウビタキの声がしました。20
日の初認以来毎日見えています。観音さん前に夏
鳥のコサメビタキ(3羽)・エソビタキ(1羽)三室
山に。途中モズが計10羽やかましく鳴いていま
した。大和川にはコガモ(20羽)、土手ではヒバリ
が囀って(?)います。神南でイカルの囀りを
聞き、声の方に行くとイカルを1羽見つけまし
た。コシアカツバメ(1羽)夏鳥と冬鳥が交差して
います。三室山の上空では、猛禽類が輪を描い
ていました。この日は久しぶりに31種類を見ま
した。散歩時間1時間半。歩数約9800歩で
した。

*コシアカツバメ11月3日20羽、これが今年
最後ではないかと思っています。無事で帰ってね、
と祈る思いです。(勝田 記)

野鳥の会情報

11/17 奈良公園でマヒワとアトリの群れや
マミチャジナイなどが見られました。
11/18 馬見公園でメジロガモが一羽いました。

美味旬感

サザンカ 甘い蜜はメジロのごちそう

12月になると山茶花の花が咲き始めます。ツバキ科ですが、椿の花より一足早く咲きます。

この季節になると一度は作るのが可愛い手まり寿司です。山茶花はもともと白の一重咲きですが、いろいろ改良されて色も形も多様になりました。

形はどれでもいいですが、色は白か薄いピンクの花びらを使います。濃い色のものでも作っていましたが、エグ味が強くよく晒さなければなりません。

山茶花の花びらをばらばらにして、さっと茹でます。色が薄くなりますが、濃い目の甘酢を作っておき、これに漬けますと又ピンク色になります。

酢飯を少し甘めに作って、小さな手まりににぎります。これに酢漬けた花びらを広げ



西谷 範子

て貼り付けます。花のように付けて、真ん中におしべの酢漬けを乗せてもいいし、卵のそばろを乗せてもいい。面倒ならぐるっと貼り付けてもいいです。

山茶花の葉は小さいので、椿の葉を添えて3つ4つ盛り付けます。味は淡泊なものですが、目と季節感でいただきます。甘酢漬けの花びらを他の酢の物と混ぜて一品としても風情があります。

椿の花で作ってもいいですが、花びらが基部でつながっていますから、切り離してください。また肉厚なので少しよく茹でる必要があります、どちらかという椿は花の天ぷらが甘味もあってよいでしょう。

山茶花の実の油も椿油に負けず良いのですが、改良種が多く、なかなか実成りが少なく、また小さいので少ししか絞れません。個人で作るのはちょっと無理でしょう。

奈良学クイズ



【問】次の文は、奈良県内のある寺院の本堂について解説しています。寺院名をお答えください。

本堂は鎌倉時代に、天平時代の「金堂」の北側に位置した「講堂」の跡地に建築された。ただ、「講堂」の礎石を利用せずに新築されています。何故かと言うと天平時代の講堂の礎石であるならば「柱間」が等寸になる筈が、現在の本堂は中央の三間が等寸で脇間(端の間)が狭くなっているからです。

鎌倉時代の再建であれば入母屋造の筈ですが天平時代の金堂様式の寄棟造を踏襲しています。また、鎌倉時代の建築意匠であるならば扉が「外開き」になるのに対して、天平意匠の「内開き」になっています。

大棟の両端は「鬼瓦」でなく「鳥休み(とりやすみ)」だけを飾っている珍しいものです。「降棟(くだりむね)」の高さは低く、優しさが倍加してい



ます。降棟は鳥休みが付いた「鬼瓦」を載せています。



◆正解の方(1名)に、赤米を進呈します。

◆応募方法は、メール (編集チーム・鈴木宛) でお願ひします。

※ 応募締切は、12月5日です。



Gallery ならやま

【クリスマスローズ】

有元康人

クリスマスローズの清潔感・
しとやかさが出ていますか？



【靴下】



【サンタクロース】

青木幸子

「こたつでチクチク針仕事、私の好きな時間です」

1月例会予告



新春講演会開催（1/26）

会場：奈良市生涯学習センター
（奈良市杉ヶ町23）

講師：長澤忠彦先生
（京都学園大学・産業技術短大
非常勤講師）

演題「地球環境問題について」

※ 詳細は、別紙案内チラシをご覧ください。

間引き菜や男料理の一夜漬け

古川祐司

大根葉の浅漬けは美味。

男一匹、禁断の厨房に入り、自慢の腕を揮う。

ならやまやたわわに柿の万灯会

古川祐司

例年ならやまの柿の大樹は秋の景を象徴する。
これを万灯会にたとえた事がお手柄。

櫓田^{ひつじ}や段段段と千余枚

鈴木未一

雄大な丸山千枚田。ここにも高齢化の悩みがある。
この遺産を誰が継ぐのか。櫓田は切株に茎の生じた田を言う。
櫓は茎のこと。秋の季語。

ゆさゆさと谷瀬の橋で紅葉狩り

阿部和生

大吊橋で小憩。ゆさゆさは紅葉にもかかる。
高所恐怖症はもみじ鑑賞で充分。



自然俳句

監修 川井秀夫

権兵衛さん休耕田にげんげ蒔く

川井秀夫

蕎麦の刈り田にゲンゲを蒔く。

肥沃な土壌の糧になると言う。

春のげんげ畑も楽しみ。『蒔く』で秋の季語とした。

那智滝の威を失はず小六月

川井秀夫

小六月は立冬の前後。好天の日を言う。
大滝の三筋に落ちて、豊かな水量が鮮やか。

もみずるや村に吊橋一つきり

川井秀夫

谷瀬の吊橋。色づく山に囲まれ、
生活の空中路。地元の方の大動脈。

小春日に熊野権現大哄^{わら}ひ

川井秀夫

難行苦行の熊野詣も今日は快晴。
権現さんもご機嫌で参拝客を迎える。

癒しの散歩道

谷川萬太郎



秋のララバイ

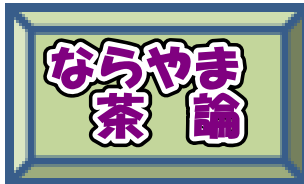
今年の秋も昔と同じ美しさに染る
織りなす華の宴に私の小さな胸は
気高く澄んだ青い空に喜び溢れ
優しく語りかける木立に頬寄せて
過ぎ行く季節の名残惜しむように
奥深く広がる鮮やかなまだら模様の

あなたへの変らぬ愛のように
高鳴る調べの中に酔いしれる
心地よい響きに秋風がそよぎ
おだやかな心ほのぼのと揺れる
柔らかな光浴びて咲く花たち
優美にきらめく紅葉の錦麗しく

冬支度

人恋しい寒い冬へと旅立つ時に
寒風にさらされ辛く忍んだ木枝に
見上げる彼方の山影緩やかに
過去に別れの序曲を刻みながら
秋の紅い夕陽に照る紅葉と遊ぶ
遠ざかる海や山あゝ故郷の景色が

悲しさに私を見つめていた涙よ
取り残された哀れな枯葉も寂し
移りゆく季節の流れ惜しむよに
未来への旅路にさあ出かけよう
幸せあざ笑うかのようにいつしか
遙か山裾の霞みに消えてゆく



「うなずく溝」

竹本 雅昭

板吉：オッス、板田に板井さん。今日は大事な木曜日、大分慣れたかい。

板田：いやまだまだですよ。でも肌色だけは先輩方と見分けがつかない位になりました。

板井：人々が大勢こられるし緊張しますよ。それに心の整理もすっきりとは言えないし…。

板助：まだうじうじしてるのか。そりゃあ家具や家材としてなら余り汚れないだろうよ。しかし多くの場合は重労働で、一瞬たりと気を抜けないぞ、休む間もないぞ。

板吉：それに比べりゃ、我々はちょっと頑張るだけで人々や車に安心を提供できる。よく時代劇に出てくる長屋の腐ったような、歯抜けや釘が抜けてあちこち向いてる哀れな格好じゃないぞ。

板田：はい分ってます。内匠さんにしっかり垂木にネジ止めしてもらいました。

それでも煩惱と言うのでしょうか、ホームセンターにいた頃の夢が抜け切れないんですよ。

板助：そう言えば、我々もそんな時代があったようにも思う。今少し月日が経てばすっかりベテランになるだろうよ。

板吉：一年もして見ろ、ここの生活も捨てたもんじゃないぞ。雲や樹木の変化、季節が変われば花、昆虫、鳥、作物等も交替して行く。目の前の筆柿の見事さに通る人は必ず立ち止まるぞ。

板助：それから我々に与えられたこのお役目、とてもありがたいことだと思う。近江商人の鍋蓋じゃないが、少しは誇りを持ってもいいんじゃないか。





万葉集と私

歴史文化クラブ
杉本 登

私は万葉集が好きである。無論、学者ではないから有名な歌や秀歌とよばれるおいしいところだけ、ほんの数十首のつまみ食いである。しかし、いいところのつまみ食い鑑賞でも十分万葉集は楽しめる。万葉集には古代の人々の喜びや悲しみの感情がストレートに表現されているので現代を生きる私達にも分かりやすく共感できるのである。古代の人々は言葉（ことのは）は言霊（ことだま）であり霊力が宿ると考え、ことばを大切にした。現代の日本人は美しい日本語を失いつつあり残念なことである。

万葉集はご存じの様に7世紀後半から8世紀後半にかけての約100年間の歌が最も多く載せられており4516首ある。時代は白鳳天平時代から奈良時代までである。また、当時の政治的な背景や社会情勢を知らないとな歌の意味や作者の心情が理解できないことが多い。万葉集には恋の歌（相聞歌）が約7割と多く、次に多いのが人の死を悼む歌（挽歌）である。万葉集の編者は大伴家持といわれている、というのは万葉集の最後の一首が彼の歌でしめくくられているからである。その最後の一首は赴任していた因幡の国庁で詠まれている。

あたらしき 年の始めの 初春の 今日降る雪の いやしけ吉事^{よごと}

当時、名門の大伴氏と氏の長者家持は新興の藤原氏に押され政治的に不遇であった。そこで正月に降る雪にかけてよいことが重なるようにと願ったのであろう。



天皇の重要な祭祀であった。香具山は神聖な山でしばしば国見の場所として登場する。国見をしていい国だなあとほめると土地神が喜び、豊作になると考えられていたのである。

古代では小高い山に登って国見をするのが

(舒明天皇の国見の歌)

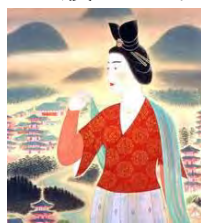
大和には 群^{むらやま} 山あれど とりよう 天の香具山 登り立ち 国見をすれば 国原は
煙^{けぶり} 立ち立つ 海原は かまめ立ち立つ うまし国そ 蜻蛉島^{あきづしま} 大和の国は

みつやま
(三 山の歌)

かぐやま うねび みみなし いにしえ
香具山は 畝火ををしと 耳 梨と 相あらそひき 神代より かくにあるらし古 昔も
しか
然にあれこそ うつせみも つま 嬢をあらそふらしき 中大兄皇子 卷一・一三

香具山（男山）は畝傍山（女山）を美しい愛しいと恋したから、耳成山（男山）と恋争いをしたらしい 神代の昔からそうだったのだから、現世に生きる私も恋争いをするのだという意味である（二人の男が一人の女を争うという意味）、この歌の解釈は色々あり二人の女が一人の男を争うのだと主張する学者もあるが、私は前記の説をとる。この三山の歌を見ると私は

すぐに以下の連想をしてしまうのである。中大兄皇子は後の天智天皇で皇太弟の大海人皇子（後の天武天皇）は同母の弟である。万葉歌人として有名な額田王は若いころ大海人と恋仲になり十市皇女という皇女まで産んでいる。しかし、その後天智天皇の後宮に入った。



近江の蒲生野での宴席での有名な歌に

あかね むらさきの しめの のもり
茜 さす 紫 野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る 額田王 卷一・二〇

この歌への返歌として大海人皇子は

紫のにはへる妹を 憎くあらば 人妻故に われ恋ひめやも 大海人皇子 卷一・二一

歌の意味は解説しなくてもよく分かると思いますが、大海人は額田を今でも恋しているよ、しかし人妻だから今はそっと秘めておこうと言っている。

天智亡き後、皇位をめぐって皇太子大友皇子と大海人皇子の間で壬申の乱が起こり、大海人皇子が勝利し天武天皇として即位するのである。

ならやま景観整備 & 情報BOX

◆ 活動予定日 ◆

12月	6日(木)	13日(木)	20日(木)
1月	27日(木)		
1月	10日(木)	17日(木)	24日(木)
2月	31日(木)		

- ◆場所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路(ならやま大通り)の南側に広がる里山林地]
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時
- ◆アクセス：

- ① J R 平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
- ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8:23発、高の原行き(平日)
- ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8:33発 J R 奈良駅行き(平日)
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手、(作業用具は現地で用意)
- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。
- ◆連絡先：木村 裕



ならやま名物 感謝祭 芋煮会のお知らせ!!

- ◆日時：12月13日(木)
12時より

- ◆会費：無料

- ◆場所：ならやま
ベースキャンプ



- ◆持ち物：お椀・コップ・箸を持参ください。

今年も、感謝祭として芋煮会を行います、ならやまで取れた野菜(里芋・ダイコン・ニンジン・牛蒡・シイタケ)など使った芋煮・おでんを味わって下さい。また先月収穫した赤米使用のおにぎりも味わって下さい。特に、春から夏に、丹精込めた山形県真室川地区で室町時代から「一子相伝」と言われている「甚五右エ門芋」をベースに牛蒡・ニンジン・ネギ・シイタケを存分に入れた芋煮は最高に美味しいと思います。また、おでんに合う田辺大根など中心にしたおでんが出ます。甚五右エ門芋の特徴は、前回11月の会報誌に載せています。今回は、日頃のならやまでの活動に感謝して、会費は取りません。また、少しですがアルコール(ビール・お酒)が出ますので、(ノーマイカーデー)といたします。今年1年間の感謝をこめた芋煮などを行いますので、会員の皆様(普段来られてない方も、ご遠慮なく)の参加お待ちしております。

問い合わせ 農園G: 富井 忠雄

新春初出会

平成25年(2013年)、新年を言祝ぐ初出会は、1月10日(木)に実施します。いよいよ会が呱呱の声を挙げて以来、早12年目を迎えます。そして、ならやま景観形成事業の委託を受けるようになって7年目に入ります。恒例の石臼と杵による「餅つき」と「七草粥」を賞味します。お餅は、毎年好評の紅白、つまり赤米入りのお餅も搗いていただきます。搗きたての美味しい杵搗き餅を、黄粉をまぶしたり、焼き餅で、是非ご賞味いただきたいものです。



厄払いと健康を祈りつつ、今年も元気で過ごせますように、一年の無病息災を願って、春の七草を使って作る七草粥も賞味していただきます。

る七草粥も賞味していただきます。

ところで春の七草を全部思い出せますか? 考えてみると、秋の七草がどれも見て楽しむ植物。春の七草はすべてが食用とされているというのは、面白い事を昔の人は考えたものですね。

行事案内 Part 1



12月例会・『加茂・当尾の里』

—岩船寺・浄瑠璃寺・微笑む石仏を訪ねて—

「岩船寺」は、本尊阿弥陀如来坐像や普賢菩薩騎象像が有名です。また、この近くの「浄瑠璃寺」は、特別名勝史跡の平安期の名庭園で知られ、三重塔や九体阿弥陀仏、そして阿弥陀堂（いずれも国宝）にも心惹かれることでしょう。その他「当尾の里」は、石仏の里としても有名ですが、古道に微笑む多くの石仏が訪れる人々を迎え、歓迎してくれます。

帰りはバスでＪＲ奈良駅へ直行し、忘年会へご出席の方は、駅前の会場へ向かいます。忘年会と併せ、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



日時：12月11日(火) 9時40分～16時

場所：「加茂・当尾の里」（木津川市加茂町）

集合：「ＪＲ加茂駅」改札口 9時40分
（ＪＲ奈良駅9：14 － ＪＲ加茂駅9：28）

コース：ＪＲ加茂駅－（バス）－岩船寺－
－不動明王立像－ワライ仏－カラスの壺－
－愛宕灯籠・薮中三尊－（昼食）－
－浄瑠璃寺－長尾阿弥陀如来－
－ＪＲ奈良駅（浄瑠璃寺前からバスでＪＲ奈良駅へ移動）

担当：八木
富井

『忘年会』開催！

＊＊この1年を振り返って、＊＊
＊＊会員相互の親睦をはかりましょう。＊＊

日時：12月11日

(火) 16時～18時

場所：ＪＲ奈良駅前

くいもの屋「わん」

0742-20-3666

奈良市大宮町1-1-10

梢ビル 2・3F

会費：男性4500円

女性3500円

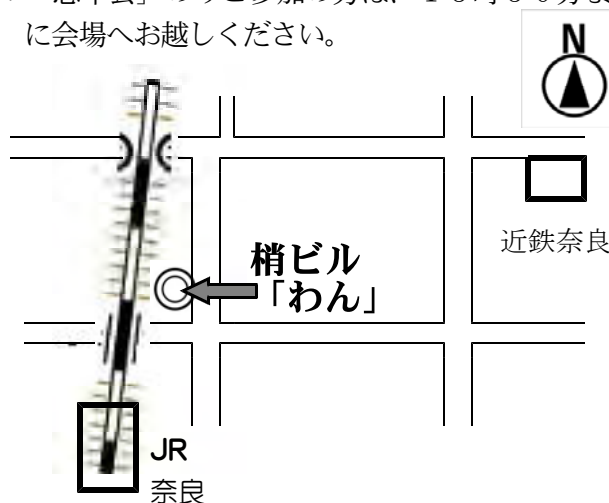
担当：寺田

忘年会



＊ご参加の方は、12月4日（火）までに担当までご連絡ください。

＊「忘年会」のみご参加の方は、15時50分までに会場へお越しください。



申し合わせ事項



ならやま環境整備活動や
野外行事は、前日午後7時
前のNHK TV天気予報で
降水確率が午前60%以上の
場合は中止になります!!

※ 忘年会は雨天
でも開催します



行事案内 Part 2

平城宮跡庭園跡 & 古梅園見学と座学のご案内

歴史文化クラブ研修会



12月は、歴史文化クラブの年末行事として、奈良市内の歴史と文化を訪ねることにしました。併せて、この機会に座学を兼ねて、メンバーの皆様と座談の機会を設営しました。ご出席いただきますようご案内申し上げます。

なお、当クラブのメンバー以外の方でも、関心のある方はご参加ください。

記

***日時・場所：**12月18日(火) 午前10時
近鉄新大宮駅 改札口前 集合

***コース：**午前の部

- ① 平城京左京3条2坊宮跡庭園 見学
10:20～10:50
- ② 古梅園奈良墨工房見学 11:30～12:00
- ③ 率川神社 参拝と伝承 12:00～12:20
=== (昼食 近辺で自由にお取りください) ===

***緊急連絡先** 川井秀夫
歴史文化クラブ事務局 古川祐司

午後の部 座学と懇談会 13:00～16:00

会場：奈良県女性センター

東向商店街 (0742-27-2300)

- ① 推古女帝の登場事情
担当 岩本 次郎 (講師敬称省略)
- ② 社叢について 川井 秀夫
- ③ 万葉秘話 杉本 登
- ④ 蘇我入鹿像について 古川 祐司
- ⑤ 自由懇談 「来年度の構想について」



宮跡庭園



古梅園



子守明神



率川神社

